

学習課題 【不正を防ぐには】

授業目標

知識・技能	知的財産権の基礎知識を身につける
思考力・判断力・表現力等	3大要素における技術について理解する。
学びに向かう力等 (現代的な課題)	不正競争防止法を理解し、不正のメカニズムにも関心を持つ。

活動① 情報セキュリティの重要性

情報セキュリティの3大要素

機密性…認可されていないものが情報にアクセスできないこと。

例) 中身をみるのを防ぐ。

対策：データの暗号化はもともと基本的な技術。送る側の情報と全く違うものに変換（暗号化）して、それを受信した側が元の情報に戻す（復号）こと。 SSL や TLS が例

完全性…情報が不正に改ざんされたり破壊されないこと。

例) 情報の書き換えを防ぐ。

対策：デジタル情報はコピーや編集が容易のため伝えられた情報が元の情報と同じであるとは限らない。元の情報と同じであるという保証を取る手法としてデジタル署名がある。

可用性…許可されたものが必要なときに情報を取り出せること。

例) 必要なときにアクセスできる。

対策：バックアップ, UPS (Uninterruptible Power Supply : 無停電電源装置), ウイルス対策ソフトウェア

その他の拡張要素

真正性 … その情報資産が正規のものだと確認できること デジタル証明書の導入

責任追跡性 … ユーザの操作を過去にさかのぼって追跡できることを示す性質。

ログの保管が十分でないとい損なわれる

否認防止 … 取引記録を保存する等。

信頼性 … システムの壊れにくさのこと

活動② 情報セキュリティポリシーを整えて有事に備える

1 基本方針

(例) 「どうしてサイバーセキュリティが必要なのか」

「情報資産を守るためにどのような方針を採るのか」

2 対策基準

(例) システム開発ガイドライン,サーバ運用ガイドライン,アウトソーシング契約ガイドライン

3 実施手順

(例) 電算室に入室する際のアクセス権限

セキュリティソフトの導入手順

活動③情報セキュリティの3大要素が整っていても…

外部侵入者を防いでも…

→内部関係者が不正を働こうすると防ぐことは難しい

従業員や業務委託先の社員等、組織の内部情報にアクセスできる権限を不正に利用して情報を持出したり改ざんしたりする攻撃者のこと

1)大手電機メーカーの提携先から外国ライバル企業へ漏えい(2012年発生)

フラッシュメモリの仕様など

2)大手教育系業者の業務委託先から漏えい・転売(2014年発生)

名前・住所などの個人情報

3)日本年金機構、サイバー攻撃による漏えい(2015年発生)

保有する個人情報の一部

*参照：経済産業省 知的財産政策室、営業秘密の保護・活用について、2017年6月

活動④ まとめ

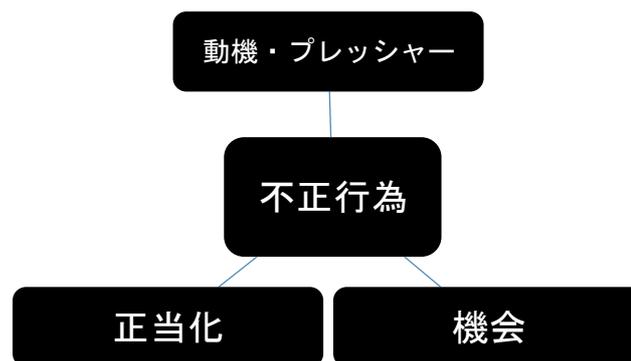
ポイント

不正競争防止法において「営業秘密」とは

- 【秘密管理性】 秘密として管理されていること
- 【有用性】 有用な営業上又は技術上の情報であること
- 【非公知性】 公然と知られていないこと

不正のトライアングル

- ①動機・プレッシャー…他人にはいえない経済的理由などの心理的な要因・業務のプレッシャーなど
- ②機会 … 不正行為を秘密裏に行える環境
- ③正当化 … 不正行為をしてもよいと自らを納得させる理由付け



評価規準

能力	項目	A	B	C
知識・技能	知的財産権の基礎知識を身につける	不正競争防止法の目的、取得の条件を理解する	不正競争防止法の目的や取得の条件を知る。	Bの基準に達していない。
思考力・判断力・表現力等	3大要素における技術について理解する。	現状で活用されている技術からの新しい活用方法を考える。	現状で活用されている技術を知る。	Bの基準に達していない。
学びに向かう力等 (現代的な課題)	不正競争防止法を理解し、不正のメカニズムにも関心を持つ。	不正のメカニズムにも関心を持ち、その構成要素に関心を払う。	不正のメカニズムに関心を持つ。	Bの基準に達していない。